

物の値段はどうやって決まるの?

私たちは毎日いろいろな物を買いますが、その値段はどうやって決められているのか、知っていますか。物の値段が決まる理由はいろいろありますが、たとえば、イチゴを例に考えてみましょう。



商品になるまでにはたくさんの手間とお金がかかっている

イチゴは、畑に種をまいておけば勝手に芽が出て実がなるわけではありません。苗を育てたり、肥料をやったり、ちょうどいい温度を保つためにビニールハウスを作ったり、さまざまな作業をしなくてはなりません。

そして、収穫したイチゴは各地に運ばれ、最終的にお店で売られます。それまでにはたくさんの手間とお金がかかります。働く人に支払われるお金、イチゴを育てるためかかったお金、ガソリン代、包装費など、どのくらいのお金がかかっているかを計算し、イチゴを作った人が損しないように値段が決められます。



同じ商品でも値段が上がったり下がったりするのはなぜ?

「〇〇ゲーム機は大人気で、なかなか手に入らない」

「時々売っているけれど、値段が高くて買えない」

そんな会話を聞いたことがありますか。

実は、同じ商品でも値段が上がったり下がったりすることがあります。どうしてでしょう。



買いたい人と売りたい人のバランスが大事

たとえばクリスマスシーズンには、人気のあるゲーム機は子どもへのプレゼントとして買う人が増えます。このとき、買いたい人の数だけ商品があれば問題はないのですが、人気がありすぎて生産が間に合わず、足りないこともあります。

そうなると、「高くともいいから買いたい」という人が増えて、商品の値段が上がります。

でも、しばらくして買いたいという人が減ったり、新しいゲーム機が出て、みんながそちらを買うようになれば、もともとあったゲーム機は売れ残ってしまいます。

すると「値段を下げてでもいいから売りたい」と店の人は考え、値段が下がります。

物の値段が安くなるのはいいことのように思えますが、値段が下がりすぎると、もうけが減って店がつぶれてしまうかもしれません。また、値段が高くなりすぎると、買う人が減って、やはりうまくいかないのです。

買いたいと思っている人の数を「需要」といい、売りたいと思っている人の数を「供給」といいます。需要と供給のバランスが取れていることが大事なのです。



天候の変化でも値段が変わる

大雨が降ったり、日照りがつづくと、農作物はうまく育ちません。そういう年は農作物の値段がいつもの倍以上に値上がりする場合もあります。

近年、地球温暖化による気候変動の影響で、農作物だけでなく、魚もとれなくなっています。それによって魚介類の値上がりが起きています。

物の値段はこのように、さまざまな理由によって上がったり下がったりするのです。



あなたの買い物が 未来を変える 「エシカル消費」

みなさんは買い物をするとき、何を基準にして商品を選びますか。 「値段が安いこと」「おいしさ」「見た目がいい」など、いろいろな選び方があると思います。

そこにぜひプラスしてほしいのが、「エシカル消費」という考え方です。 「エシカル消費」とは、人、社会、地域、環境にやさしい消費行動です。つまり、思いやりの心を持った商品やサービスを選ぶことなのです。

みなさんは買い物をするとき、何を基準にして商品を選びますか。

「値段が安いこと」「おいしさ」「見た目がいい」など、いろいろな選び方があると思います。

そこにぜひプラスしてほしいのが、「エシカル消費」という考え方です。

「エシカル消費」とは、人、社会、地域、環境にやさしい消費行動です。つまり、思いやりの心を持った商品やサービスを選ぶことなのです。

どんな国で、どんな人が生産しているのか

たとえば、甘くておいしいチョコレートや、衣類を作る元となる綿の材料が、どこでどんなふうに生産されているか、考えたことはありますか。

実は、これらの生産国の中には、「安心して飲める水がない」「子どもを学校に行かせられない」「病気で亡くなる人が多い」など、さまざまな問題を抱えた国も多いのです。働いた分の賃金がきちんと支払われないこと、子どもが労働させられていることも少なくありません。

環境は守られている?

日本では、お金を出せば簡単に商品が手に入ります。安くても良い物が身近にあります。それが当たり前すぎて、まだ使えるのに、まだ食べられるのに、捨ててしまう生活に慣れっこになってしまいませんか。



でも、日本は多くの物を輸入に頼っています。輸入には大量の輸送エネルギーが使われ、そのために多くの二酸化炭素が排出されています。また、安い商品を生み出すための森林伐採が行われています。環境が破壊されて、生き物の種類や数がどんどん減っています。大量生産・大量消費の暮らしが、地球温暖化や気候変動、海の汚染を招いていることに、私たちはちゃんと目を向ける必要があるのです。



商品を選ぶ目安

世の中にはたくさんの商品があるので、「人や環境にやさしい商品をどうやって見分けたらいいの?」と思った人もいるでしょう。

そのひとつ目の目安として、認証ラベルやエコマークがあります。これは一例ですが、買い物をするときに注意して見てみるといいでしょう。



国際フェアトレード
認証ラベル
FAIRTRADE

公平な貿易が行われて
いることがわかる



エコマーク
環境保全に役立つ
と認められた商品
につけられる



海のエコラベル
持続可能な漁業で獲れた
水産物
MSC認証
www.msc.org/jp



有機 JASマーク
農薬や化学肥料などに頼らない
自然界の力で生産された食品



グリーンマーク
古紙を原則40%以上利用した
製品に表示が許されるマーク

エシカルな消費者になろう!



みんなが学習しているSDGsには、「つくる責任つかう責任」という開発目標がありますね。これは、持続可能な方法で生産し消費する取り組みをすすめていこうというものです。

だから、買い物をするときには、人や環境に優しい商品を選びましょう。

そして、もっと大切なのは、「余分に買わない」「買った物を大切に使う」「きちんと食べかる」ことです。

リサイクル(再生利用)よりもリユース(再使用)、リユースよりもリデュース(削減)。

一人ひとりがエシカルな消費者になることで、地球の未来を変えることができるのです。

せきにん せきにん
どこの国で作られたのか?
環境にやさしい商品かな?
本当に買う必要があるかな?



銀行って何を しているところ?

「銀」行って何をしているところ?と聞かれたら、「お金を預ける場所でしょ」と答える人が多いと思います。もしかしたら、みなさんも、おこづかいやお年玉を銀行に預けているかもしれませんね。

たしかに、お金を預かるのは銀行の大切な仕事のひとつです。でも、ほかにも大切な役割を持っているのです。

必要な人にお金を貸す

銀行には「お金を貸す」という大事な役割があります。たとえば、家を買ったり建てたりするには、たくさんのお金が必要ですね。そんなとき、銀行が貸してくれます。お金が貯まるまで待たなくてすむので、とても助かります。

そのかわり、借りたお金は「利子」をつけて返さなくてはいけません。

たとえば、100万円借りたら、100万円だけではなく、いくらかのお金をプラスして返すのです。つまり、利子は、銀行のお金を使った「使用料」と考えるとわかりやすいかもしれません。

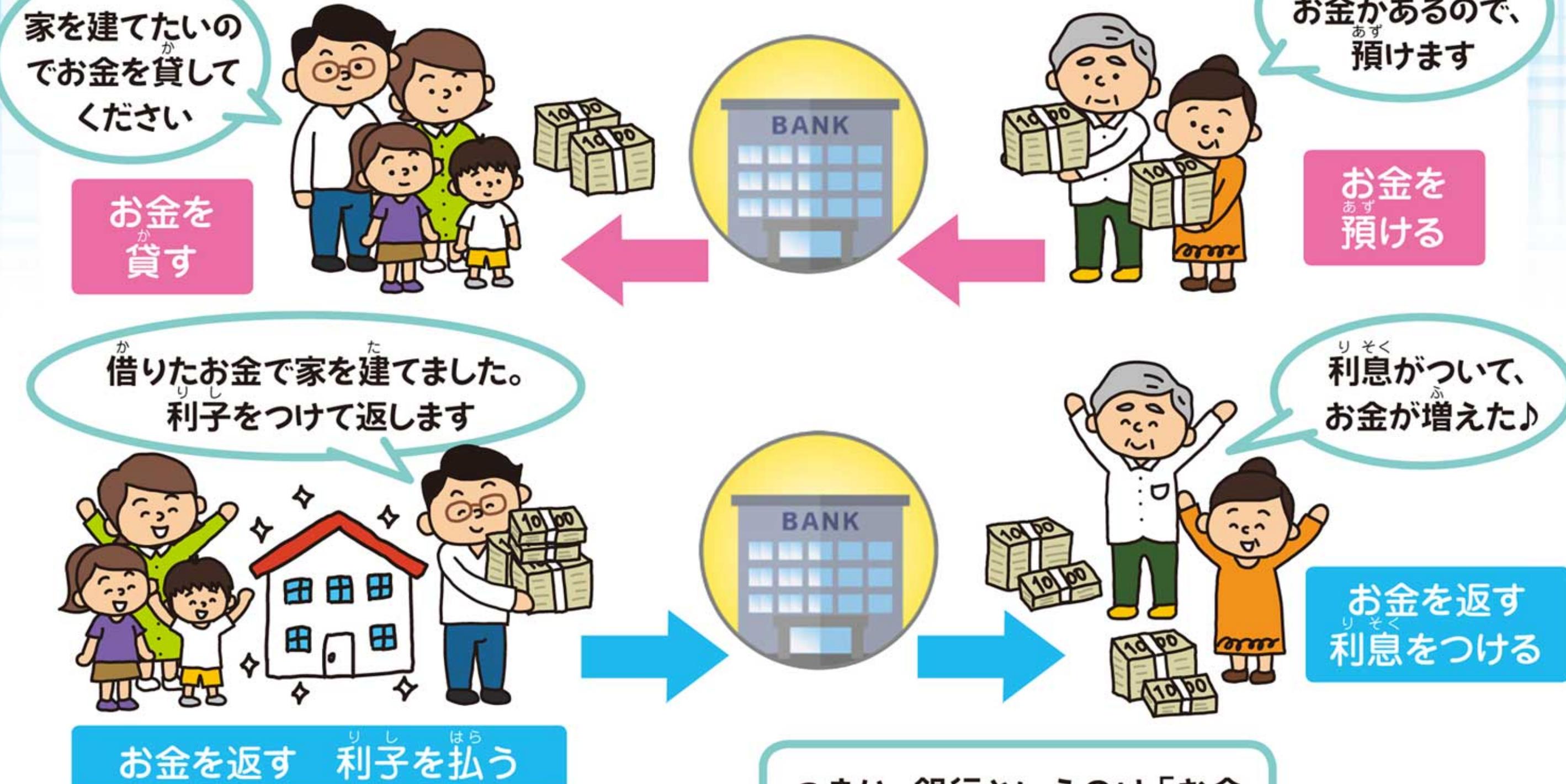


預けたお金が増えるのはなぜ?

銀行にお金を預けると、預けた金額より増えることがあります。増えたお金のことを「利息」と呼びます。なぜ、お金を預けておくだけで、利息がつくのでしょうか。

実は、預けたお金が増えることと、銀行がお金を貸していることには、深い関係があります。なぜなら、銀行が貸し出しているお金は、みんなが預けたお金だからです。そして、お金を貸した人から「利子」を受け取り、お金を預けた人に「利息」を支払います。

図を見るとわかりますが、こうして、お金はぐるぐる回っているのです。



お金を移動させる役割

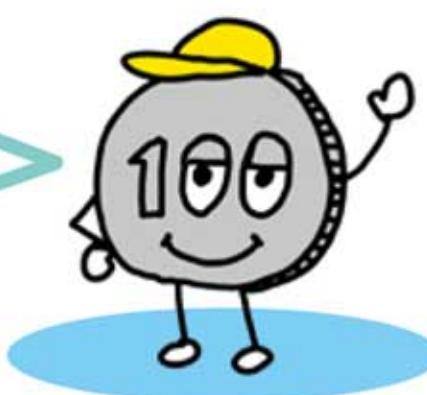
たとえば、コンビニでお菓子を買うときは、そのままお金を払えますが、家や車のように何百万円、何千万円もするものを買うとなると、現金を持ち歩いて支払うのは大変です。

また、遠く離れた場所の人にお金を払うとき、あるいは受け取るときは、直接会ってやりとりするのは大変です。そんなときに、お客様にかわってお金を移動させるのも、

銀行の大切な仕事です。



銀行があつて
助かったわ



もしも銀行がなかったら……

このように、銀行は、お金を預かる(預金)、お金を貸す(貸出し)、お金を送ったり受け取ったりする(為替)という3つの役割を持っています。

もし、銀行がなかったら、自宅に大金をしまっておかなければなりませんし、家や車を買うのに、お金が貯まるまでずっと待たなくてはなりません。また、遠くの人にお金を払うときに、自分で遠くまでお金を運ぶ必要があります。とても不便ですね。

そう考えると、銀行は私たちの暮らしに欠かせないものなのです。